

タイトル 尾池和夫講演会「地震を知って震災に備える」

掲載日 2009年5月25日(月)

掲載紙誌名 毎日新聞

掲載面 京都学研 23面

23 京都 ③学研 2009年(平成21年)5月25日(月)

# 京都学研

学研・宇治支局  
〒611-0021  
宇治市宇治字文字2の26  
TEL 0774(21)2084  
FAX 0774(21)2080  
gakken-uji@mbx.n  
ainichi.co.jp  
【京都支局】  
〒802-0877  
京都市上京区河原町通丸  
太町上ル  
TEL 075(211)3151  
FAX 075(241)2152  
【舞鶴支局】0773(76)4000  
【広告のご用は】  
075(213)3461  
【販売のご用は】  
0120-468012

よしかわ  
京左京一大学病院前通川端東入  
(京阪電車丸太町駅・車庫2分)  
〒771-0491(日祝定休)  
**吉川眼鏡店**

まいまいクラブ  
会員募集中  
(入会無料)  
http://my-mai.mai  
nichi.co.jp  
事務局050-1199-7655

## 支局長 からの手紙

新型インフルエンザの影響でイベント中止が相次いでいますが、「行きたい」と思っていた23日の国際高等研究所(木津川市)での講演会は中止にならず、ホッとしました。テーマは「地震を知って震災に備える」で、講師は地震学者の尾池和夫所長(前京大支局長)です。写真、インフルエンザ対策として、参加者にマスク着用、手洗いを徹底してもらい実施。私もマスク姿で聴講しました。

講演で尾池さんは、地震の定義や過去の地震などについて分かりやすく説明。そのなかで引用されていた寺田寅彦(1878~1935)の言葉が印象に残りました。「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしい」と話しました。

いが、正当に怖がることはなかなかむづかしい」とも考えさせられる言葉です。尾池さんは「何をもちって怖い」と言うか。しっかりと知識を持ち、しっかりと観察をすることが大切だ」と補足説明しました。

## 地震と新型インフル



尾池さんの講演を聞いていて、今回の新型インフルエンザ問題と共通点が多いと感じました。まず第一に、正しく評価することの大切さ。寺田寅彦の言葉でいう「正当に怖がる」ことです。今回のインフルエンザは弱毒性で、

高めるにはどうしたら」という質問も。尾池さんは「とにかく揺れる10秒間に死なない対策をすること。例えば、寝る時には、物が上から落ちてこない場所を選ぶ」とか「アドバイスしていました」。

おおげさに怖がる必要はありません。ただ、季節性インフルエンザと違って免疫がないため感染力があります。また、慢性疾患の患者は重症になる可能性も指摘されています。

そういうことを考えると、国や行政の姿勢として、社会的な規制はどこまでやるべきなのか、どんな人たちへの予防策を充実させるべきかということが分かってきます。また、ワクチンの開発も早急に望まれるところです。

一方で、私たち一人一人も感染の拡大を少しでも防ぐための心がけが必要です。マスクや手洗いを励行、そして備蓄物品の用意もしておきましょう。今回、各地で起きたマスクの品切れ騒ぎは、いい教訓になったはずです。備えを怠りなくお願いします。

【学研宇治支局長・三野雅弘】